

製品名: MLTK ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab13964**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300
分子量	91kDa

抗原情報

遺伝子名	MLTK MLTK; ZAK; HCCS4; Mitogen-activated protein kinase kinase kinase MLT; Human cervical cancer suppressor gene 4 protein; HCCS-4; Leucine zipper- and sterile alpha motif-containing kinase; MLK-like mitogen-activated protein triple kinase; Mixe
別名	
遺伝子 ID	51776.0
SwissProt ID	Q9NYL2
免疫原	抗血清はヒト MLTK 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 701-750

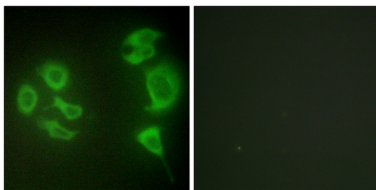
背景

この遺伝子はシグナル伝達分子の MAPKKK ファミリーに属し、N 末端キナーゼ触媒ドメイン、それに続くロイシンジッパーモチーフ、および不稔性 α モチーフ (SAM) を持つタンパク質をコードしています。このマグネシウム結合タンパク質はホモ二量体を形成し、細胞質に局在します。このタンパク質はガンマ線シグナル伝達を媒介して細胞周期停止を引き起こし、その活性は細胞内の細胞周期チェックポイント制御に関与しています。また、このタンパク質はアポトーシス促進活性も有しています。異なるアイソフォームをコードする代替転写スプライスバリエントが同定されています。 [RefSeq 提供、2008 年 7 月],触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。補因子: マグネシウム。酵素調節: PKN1 によるリン酸化および Thr-161 と Ser-165 の自己リン酸化によって活性化されます。機能: タンパク質キナーゼシグナル伝達カスケードのストレス活性化構成要素。JNK および p38 経路を調節します。アポトーシス促進性。CHEK2 の直接リン酸化による S および G2 細胞周期チェックポイントの調節に関与。アイソフォーム 1 は細胞収縮とアクチンストレスファイバーの破壊を引き起こしますが、アイソフォーム 2 は引き起こしません。アイソフォーム 1 は、腫瘍細胞の形質転換と癌の発生に関与している可能性があります。アイソフォーム 1 はヒストン H3 の「Ser-28」をリン酸化しますが、アイソフォーム 2 は引き起こしません。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。STE Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。MAP キナーゼキナーゼキナーゼサブファミリー。類似性: 1 つのタンパク質キナーゼドメインを含む。類似性: 1 つの SAM (sterile alpha motif) ドメインを含む。細胞内局在: 紫外線 B 照射により核へ移行する。サブユニット: ホモ二量体。PKN1 および ZNF33A と相互作用する。組織特異性: 普遍的に発現する。アイソフォーム 2 は、調べたすべての組織において優勢であるが、肝臓ではアイソフォーム 1 の発現がより高かった。、

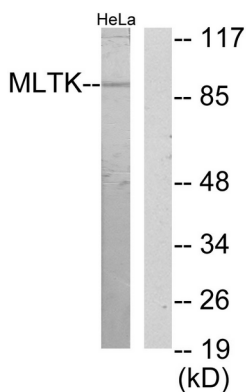
研究分野

MAPK_ERK_Growth;MAPK_G_Protein;タイトジャンクション;

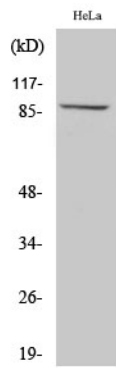
画像データ



MLTK 抗体を用いた HepG2 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



MLTK 抗体を用いた HeLa 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



1: 1000 に希釈した MLTK ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析